巻頭言

人に恵まれた歩み

セッツカートン株式会社
代表取締役社長　丹　羽　俊　雄
T. Niwa

セッツカートン株式会社は，1947年創業の段ボール中芯原紙のトップメーカーセッツ株式会社の段ボール部門を継承して，1999年に設立された総合パッケージメーカーです。おかげさまで，今年25周年を迎えることができました。その間の歩みについて，ご紹介させていただきたいと思います。

私が入社したのは，オイルショックの影響を受けた1976年で，当時は就職難の時代でしたが，摂津板紙株式会社（後のセッツ株式会社）にお世話になることができました。体育会系だった私は当時の慣例に従い段ボール事業部門の関連子会社へ出向することになりました。後に，伊丹工場への配属が決まり，営業の道へと進むことになりました。思えばここが私の人生の岐路だったかもしれません。その後，営業課長を経て2003年に役員になり，2013年より現職として今に至っております。

設立当初は緊縮的な経営でしたが，2006年の宇都宮工場の建設を機に，2011年に伊丹工場のリニューアル，2016年に新東京工場建設，2021年に八潮工場リニューアル，2022年小牧工場への新コルゲートマシン導入を含むリニューアルと大きく舵を切り，生産量，売上を伸ばしながら大規模な設備投資を行ってきました。その結果，効率よく時間当たりの生産量を確保できる環境を整え，働き方改革にも対応，従業員にとっても働きやすい職場を作ることができたのではないでしょうか。お客様にとっても安心してお取引いただけるサプライヤーとしての関係づくりも強化してこられたと自負しております。当時としては勇気のいる設備投資でしたが，近年の物価高や人手不足を踏まえると，早い段階で進めてきたことが現在，当社の強みとして発揮されていると思っています。

仕事への向き合い方については，入社当時の先輩方からの教えが非常に勉強になっています。いろいろと厳しい面もありましたが，しっかりと教育をしていただきました。次はそれを後輩に教育をしながら各地を回ってきました。新規の案件が増えてくると，生産部門のメンバーに助けてもらい，相談に乗ってもらいながら獲得をしてきました。このときに製販一体としてやってこられたかなと思えたことを今でも覚えています。私の人間関係は先輩から後輩，現場の人まで非常に恵まれていたと思います。今の立場になっても，幹部や工場長，みんなが助けてくれます。素晴らしい人材と共にここまでやってこられたのも，当時の先輩方の教えがあってのことだと思います。

私たちは，単にモノを包む目的だけではなく，受け取る人の立場に立ち，モノに込められた送る人の気持ちも大切にしています。安全で安心な素材を使用し，環境への取り組みはもちろん，被災地支援から自治体との防災協定まで，モノだけでなく，ヒトにも優しい，パッケージの製造に取り組んでいます。

これからも，“心”までをも包む総合パッケージメーカーとして，生産から販売にいたる一貫体制のもと，一つひとつの製品に最適なパッケージングをご提案し，豊かな暮らしや生活に貢献して参りたいと考えています。